

## V 残された問題点と解決方針

本研究は、珊瑚礁内海の漁場環境の改良を目的として進めてきたが、干潟漁場の改良の方法としては、生育環境の安定化をはかることがまず必要であり、そのためには干潟の全面掘削が提案された。

しかし、この方法には次のように1~2の問題がある。すなわち、①干潟の存在は、本調査でも若干明らかにされているとおり、有機物の酸化分解の促進に役立っており、漁場環境全体の安定化に貢献していると考えられること、②掘削工法による浮泥の生態系におよぼす阻害的影響が予測されること等である。したがってこのように干潟における漁場改良の実施にはなお解決を要する困難な問題があるので、今後は干潮線下、すなわち礁湖にかぎって本研究をすすめる必要がある。

また、広域な面積に適用できる技術の検討についてはまったく着手されてない。同様にアジモの繁茂促進をはかるためには何らかの手段が必要であるが、その検討についても残されたままである。

本研究の結果、沖縄島周辺の珊瑚礁漁場でも、地域によって自然条件は異なっており、各漁場に応じてモ場造成の対象植物としてアジモとガラモが取捨選択されるべきであるとされた。アジモが適当でない漁場ではガラモ、ガラモができないところではアジモのように互いに補完的關係がみられるので、ガラモ場造成についても試験を行う必要がある。

以上の問題を以下の方法で検討し、3年間で解決したい。

### 1 アジモ場造成

1) アジモ場の初期形成に影響する要因と影響度

(イ) 分布状態と地形、気象要素の關係、主として既存資料をもとにして沖縄島周辺の主要藻場について

(ロ) 漂砂の動態調査(屋嘉田潟原漁場、周年)

(ハ) 実証試験

(ニ) 食害の影響度

2) 移殖方法の検討

3) 生育を促進する方法の検討

(イ) 施肥方式(方法、資材)

(ロ) 自然モ場での栄養塩(全窒素)と葉体重量

### 2 ガラモ場

1) ウニの増殖に対する寄与率

2) ホンダワラ類の生長と海象要因

3) 基質の形状とその効果

(4) 害敵とその防除方法